

広報

かみす

2026年
2/1

No.451

Kamisu public relations

AR 広報かみすが動き出す
[COCOARI]アプリをダウンロードし表紙にスマートフォンをかざしてください。詳しくは14ページ

[COCOARI]



Pick up

確定申告…………… P6
取扱業務の一部休止…………… P10
物価高対応 子育て応援手当の支給… P10

LINE
市公式LINE
はコチラ




File 32
神栖デイスカバリー

はたちのつどい

人生の節目とみんなの笑顔

1月11日、市文化センター前に突如現れた横断歩道。

神栖市誕生の年に生まれた20歳の皆さんは、まちの歩みとともに、新たな道を歩き始めます。世界的に知られる「アビイ・ロードの横断歩道」(*)のように、同じ一歩を踏み出すその先には、どんな未来が待っているのでしょうか。

978人の新たな門出を祝う「はたちのつどい」式典の様子を紹介します。

(※)ザ・ビートルズのアルバム「アビイ・ロード」のジャケット写真撮影場所
(写真：市文化センター前の歩道で安全に配慮して撮影)



神栖ディスカバリー

File 32

特集

はたちのつどい

人生の節目とみんなの笑顔

1月11日、20歳の門出を祝う「はたちのつどい」が市文化センターでおこなわれました。輝くような笑顔と華やかさにあふれた「ハレの日」のようすや、人生の特別な一日を迎えた皆さんの思いをお伝えします。



市長式辞





誓いのことば



実行委員長あいさつ



抱負発表



アトラクション

1月11日の朝、文化センター前の広場に晴れ着姿の20歳の方が続々と集まり、友人との再会に歓声を上げたり、家族と記念写真を撮ったりと晴れやかな雰囲気になりました。神栖市で今年、20歳の新たな門出を祝う「はたちのつどい」の対象となるのは978人（2005年4月2日～2006年4月1日生まれ、市外在住者含む）で、757人が出席しました。2022年に成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、成人式が「はたちのつどい」へと名称も変わっていますが、人生の節目を祝う大切な行事であることに変わりはありません。

ほぼ満席の大ホールで、厳かに式典がスタート。今年も企画から当日の進行まで務めたのは、20歳を迎えた実行委員の皆さんです。「誓いのことば」「抱負発表」「実行委員長あいさつ」など、率直で誠実な思いを、会場全体が静かに聞き入っていました。恩師からのビデオメッセージが流れると、歓声や拍手で大盛り上がり。「夢を持って頑張れる人になってください」とい「コロナ禍を乗り越えた経験は、これからの人生に大いに役立つでしょう」など熱いエールが送られました。

20歳の皆さんがどのような思いで今日の日を迎えたのか、聞いてみました。「今は千葉に住んでいるので、久しぶりに小中高の仲間と会えるのを楽しみにしていました」（乾隼輔さん）との声。大学や就職で地元を離れている人が多く、この日も東京、千葉、福島、京都、北海道など全国から集まりました。また、「片親で育ててくれた父に感謝しています。恩返しできるようにになりたいです」（村田夢輝さん）など、親御さんへの感謝の気持ちを持つ人がたくさんいました。他にも、「神栖市に住み続けて、家庭を持つことが夢」（石神桃花さん）、「神栖市のために頑張ります！」（栗飯原晴翔さん）という地元愛あふれる声も聞くことができました。自分の考えをハキハキと答えてくれた20歳の皆さん。自分の道をしっかり歩んでいこうとする姿勢に、希望と責任感が感じられました。

あなたの推しは 何ですか？

式典会場で神栖の魅力のイチオシを聞きました。



二瓶 美桜さん



長町 晴輝さん



松永 圭叶さん



I.Rさん



一原 ゆうさん



野口 有紗さん



吉川 麻奈美さん



粟飯原 晴翔さん



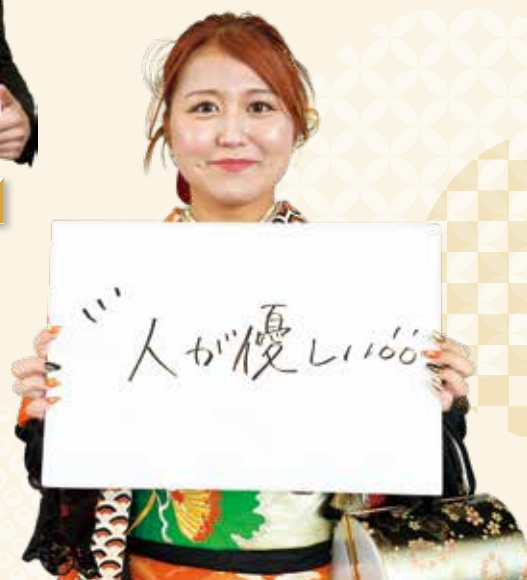
伊藤 龍雅さん



中島 稀良さん



小川 太陽さん



石神 桃花さん



荒井 将翔さん



ラクトーン ピチャーモンさん



宮野 悠紀さん



石井 花歩さん



入念な打ち合わせ



前日のリハーサル



実行委員の皆さん



舞台袖から見るビデオメッセージ



式典中の舞台裏



息の合った司会の2人

2026年神栖市はたちのつどい実行委員

今年の実行委員は16人。役割分担はすべて立候補で決まり、4カ月かけて準備をしました。意気込みを尋ねると、「中学の時にコロナ禍で厳しい状況乗り越えた仲間だからこそ、分かり合えることがあります。みんなで協力して素晴らしい式にしたいです」(実行委員長・伊藤綾希さん)、「一生に一度のことなので、皆さんの記憶に残る式にしたいです」(副実行委員長・坂本雄希さん)と話してくれました。誓いのことばを担当する2人は「大きい式典を運営した経験は、今後の人生の糧になると思います」(今

泉咲良さん)、「人前に立つのは得意ではありませんが、挑戦することにしました」(緑川由華さん)。司会を担当する2人は中学時代の生徒会長と副会長で、「はたちのつどいという大舞台で、2人で司会をしたいと思います」と思いました(磯海斗さん)、「いろいろな困難乗り越えてきた最強のバディです」(池永修斗さん)と息がぴったり。

式の前日は口々に「緊張している」と不安そうな面持ちでしたが、当日は舞台上で堂々と振る舞い、それぞれの役割を立派に果たしました。